

### OCTOBER PHOTO ALBUM

10月もあっという間でした...皆さん、有意義な時間を過ごせたでしょうか??



10/2テスト前勉強会 大部屋組



河川敷で気分爽快



和室組2



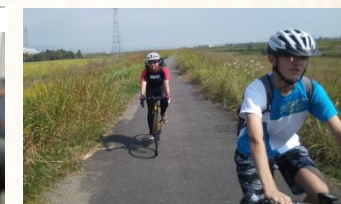
手品を披露



和室組1



回文を紹介



10/9諫早サイクリング



休み時間運動組



休み時間文化組



やっと休憩



10/22 グループホーム川平訪問

### 11月の特別活動の予定

11/5 (日)

#### 九重登山

雄大な自然・美しい紅葉。心も体もリフレッシュ!

11/18 (土)

#### 月の黙想会

死者の月にあたり、人生の終わりについて、祈りの中で考え、今から与えられた時間を最大限活用する決心をしよう!

11/26 (日)

#### テスト前勉強会

この日の学習が、既に2度目3度目の復習になっているよう、日々の勉強をさらにスピードアップさせよう!



今月の司祭のお話

## 天国からの母親の愛



あるドイツ人の神父様の子ども時代の話です。その神父様は7人兄弟でした。皆、男の子。腕白で、いたずら好きな子どもたちばかりだったそうです。あるとき8人目の子どもをお母さんがお腹に宿します。でもその妊娠は大変困難な状況だったようです。「妊娠を中断すれば、母親は助かる。でも生めば、母親の命は助からない」そう医師から宣告されます。子どもは、一番上が12歳、下の子に至っては1歳でした。皆、母親を必要とする小さな子どもたちばかりです。彼女はずいぶん悩みました。愛する夫と相談し、祈り、そして決断しました。

7人の子どもたち全員を病室の枕元に呼んで、こう言ったのです。「いいかい子供たち、お母さんに、いよいよ神様のお呼びがきたみたいなの。それが神様のお望みだから、お母さんはお応えしなくっちゃ。でも、お母さんのことは、心配しなくていいんだよ。もうすぐお母さんは天国に行くのだから。お母さんはおまえたちのような良い子どもに恵まれて、とても幸せだったよ。そして、天国でもおまえたちの成長を見ながら幸せだからね。さみしがってはいけないよ。泣いてはいけないよ。お母さんはいつも、どんなときも、神様といっしょにおまえたちのそばにいるから。お母さんがおまえたちを守っているからね。それを忘れちゃだめだよ」。

やがて母親は8人目の子どもを生んで亡くなりました。子どもたちはその後立派な大人となりました。時は第二次世界大戦の勃発の頃。戦争が始まると、男の子たちは皆、兵隊として戦地に送られました。かの神父様（まだ神父ではなかった）も、戦地で敵に捕まり、銃殺刑にかけられることになりました。目隠しをされ、仲間が一人、また一人と銃声の後、倒れていきます。「いよいよ、自分の番か」。ところが、もはや最期とあきらめたとき、自分の直前でなぜか刑の執行が中止されます。彼は救われました。

時はまた過ぎ、ドイツは終戦を迎えます。8人の兄弟は全員が無事に戦後を迎えることができました。敗戦国ドイツにおいては、奇跡的なことです。その後、彼は「神父になって日本に行きたい」という少年の頃の夢をついにかなえました。ちなみに、母親の命と引きかえに生まれてきた赤ちゃんは、唯一の女の子でした。その女の子は、6人の子どもの母親となり、いまでは多くの孫に囲まれているそうです。

11月はカトリック教会では「死者の月」と呼ばれ、亡くなった家族そしてすべての人を特別に思い出します。私たちにも、それぞれ大切な人が天国にいてくださる。その大切な人が私たちをしっかりと見守っていてくださる。だから私たちは決して一人ぼっちになることはありません。その事実を思い出して、亡くなった人が神様のそば近くで永遠に幸せでありますように、そして、私たちのことをこれからもしっかりと見守って下さいと祈るようにしましょう。

〈裕恵介神父〉